

ため池における外来魚駆除後の状況について

福本 一彦 (鳥取県水産試験場)・尾田 昌紀・門脇 直・前田 浩行 (鳥取県公園自然課)・
工藤 智 ((地独)北海道立総合研究機構さけます・内水面水産試験場)

【背景】

2005年に鳥取県が行った外来魚生息実態アンケート調査によると、少なくとも県内29ヶ所の農業用ため池にオオクチバスまたはブルーギルが生息している。このうち約3割のため池では池干しによる外来魚駆除が行われているが、約3割は物理的あるいは人的理由により池干しが行われていない。今回は、2008～2010年に地元の要請を受けて実施したため池における外来魚駆除の活動状況について報告する。

【方法】

鳥取市河原町玉津地区からの要請を受け、2008年11月2日に本谷池において池干しを実施した。また、2009年10月4日には本谷池下流の醍醐池にて池干しを行った。その後、2010年10月13日には電気ショッカーボートにより延5回池を周回し、感電麻痺して視認された全ての種を捕獲した。

【結果】

池干しの結果、本谷池、醍醐池ともにオオクチバスが個体数比、重量比ともに優占していた(表1, 2)。オオクチバス以外の魚類は、本谷池ではトウヨシノボリがわずかにみられた程度で、醍醐池ではフナ属、コイ、ドンコが認められたが、いずれも幼魚は認められず、中-大型個体しか確認されなかった。

2010年の醍醐池のモニタリング試験では、オオクチバス40個体が採捕された。その他の魚類では、ドンコの稚幼魚やトウヨシノボリ、ドジョウも確認され、少しずつではあるが、在来種の回復傾向も見られた。

表1. 本谷池で採捕された種の個体数および湿重量(2008年11月2日)

種	個体数(%)	湿重量(kg)(%)
オオクチバス	1102 (96.3)	32.75 (87.10)
トウヨシノボリ	6 (0.5)	0.01 (0.03)
スジエビ	25 (2.2)	-
サワガニ	2 (0.2)	-
ミシシippアカミミガメ	7 (0.6)	4.32 (11.49)
カメ目	1 (0.1)	0.52 (1.38)
ミズカマキリ	1 (0.1)	-

* その他、ヤゴ、オオタニシ、モノアラガイ等を確認。-はNo dateを示す。

表2. 醍醐池で採捕された種の個体数および湿重量(2009年10月3-4日, 2010年10月13日)

種	2009年		2010年
	個体数(%)	湿重量(kg)(%)	個体数(%)
オオクチバス	1333 (91.1)	67.4 (49.5)	40 (35.1)
フナ属	84 (5.7)	47.4 (34.8)	22 (30.7)
コイ	22 (1.5)	19.8 (14.6)	0
ドンコ	13 (0.9)	1.3 (1.0)	13 (11.4)
ドジョウ	0	0	6 (5.3)
トウヨシノボリ	0	0	13 (11.4)
アメリカザリガニ	11 (0.8)	0.2 (0.1)	2 (1.8)
ヌカエビ属	0	0	5 (4.4)
ウシガエル幼生	0	0	多数
合計	1463 (100)	136.1 (100)	114 (100)